

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		~ 2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・指導員全員で、個々の支援内容や活動プログラムの理解と共有を行っている。	・支援の打合せ、振り返りは毎日必ず行い全員で共有して検討している。 ・指導員2~3人体制の担当で行っている。	・個々の職員の専門性を最大限に活かした支援内容やプログラムを作成し、自立に向けての取り組みを行っている。
2	・子ども達の本質的な課題を多角的視点から検討共有し、支援に活かしている。	・指導員間でお互いを認め合い、共有しあいながらスキルを高めあっている。個々の支援内容や、関わり方など常に検討し合い、職員間で積極的に取り組んでいる。	・個々の支援の質やスキルをさらに上げていき、日々療育についての研究や学習に取り組んでいく。また、習得した内容はアウトプットするなどし、全員で共有して学び続ける事を行っていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域や病院、関係機関との連携の不十分さ。	・連携環境の設定の不十分さ。 ・連携方法や連携後の支援への活かし方の検討。 ・事業所としての意識づけの不十分さ。	・積極的な連携を全員でおこなっていき、連携がとりやすい状態をつくる。 ・事業所として、職員への意識づけと環境の設定を行っていく。
2	・事業所内の行事や研修、訓練等の周知の不十分さ。	・保護者の方や外部に向けての周知の不十分さ。 ・発信方法や開示の不十分さ。 ・事業所としての意識づけの不十分さ。	・「きらり新聞・会報誌」等で事業所内での研修や行事等の発信を毎月行っていけるよう環境や体制を整える。 ・事業所として、地域や保護者の方の理解を深めることの重要性の把握をし、校舎全体で意識して行動していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」神辺校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 40

回収数 27

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	2		1	学習のスペースは十分。もう少し体を動かせるスペースがあるといいと思う。	その日の状況にもよるが、体を動かすスペース等の環境の設定は都度おこなっています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	27					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	2		2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27				いつも綺麗にできていてと思います。	気持ちのよい空間、子どもたちの居場所として安全かつ清潔を意識しています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	1			子どもの好きな事を取り入れてくれていてるので嫌いな文章題なども理解しようと頑張っているようです。	取組みやすいように、イメージしやすいように工夫しています。今後も、様々なアプローチを行っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25			2		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26			1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	3		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	6	5	12		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27				詳しく説明していただいています。	目標やねらいを保護者の方と共有し、将来にむけて一貫したサポートに取り組めることを目指しています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	5		10		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	25	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	3			毎回最後に面談をしていただき、子どもの成長している部分などを共有できるのありがたいです。対応の難しい子に対して促しかた等色々と考え理解してくれて「きらり」さんにお願いで（通えて）良かったです。	職員全員の質やスキルの向上など常時意識しています。より勉強を行い質の高い支援ができるよう職員一同取り組みます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	3	4	14		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	3		4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	3		12		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	2		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2		5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	1	15		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	4		4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	2		6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	26			1	楽しく学習できていると思います。いろいろ工夫して下さっているので基本楽しみに通っています。勉強はあまり好きではないので…と言ったところ です。	居場所であり、何でも話せる場所とすることを意識しています。安心安全に過ごせる場所であることを継続していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	8			勉強をしている時楽しみという表現は少し違いますが学習に対する嫌悪感はいさぐさ薄れて来ているようです。	楽しさや面白さ、満足感や達成感をしっかりと感じていただき、自信へと繋げていけるように今後も取り組んでいきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	1			苦手な事や本人のペースに合わせて支援していただいていると思います。	個々の本質的な課題を見極め、保護者の方も子ども達にも寄り添っていくことを意識して今後も取り組んでいきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」神辺校			公表日		2025年 2月 15日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		6		個々のニーズと状態や必要に応じてスペースを変えている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		適切である。状態により指導員を増やすなどし対応している。	こどもの状態に合わせ、関わる職員の人数を増やすことも多いため、その際の対応が課題。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4	2	段差があるところや、滑りやすい所など、早めの声かけをおこない注意の促しを行っている。建物の入り口に一部スロープを設置した。	玄関・面談室・トイレに段差がある。安全に留意し活動をおこない、事前にシュミレーションをし環境の設定を行っている。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		毎日、清掃・消毒している。使用した教材やおもちゃ等の消毒を行っている。	入れ替わりの時間等は、机やイスの消毒、使用したおもちゃ等の消毒をする必要があるが環境設定の時間が少ないことが課題。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		状態に応じて個別の場所を使っている。	その日の状態に合わせて行えない場合もある。(すでに使っている等)		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		6		毎日職員全員でミーティングを行い、目標の明確化と振り返りを行っている。お休みの職員さんにも、翌日には必ず共有をする。また個別でも行い自ら意識できるよう徹底を行っている。	PDCAサイクルの継続を意識して取り組める様に環境や時間調整を行っていく必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		全員で共有し、検討を行い改善にむけて動いている。	保護者であったら、という視点をもち客観的に考えられるよう意識をもつ。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		毎日のミーティングや個々のミーティングで必ず意見等を聞いている。	積極的な発言を促すことや、定期的な意見の聞き取りが必要。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			6	外部評価はおこなっていないが、様々な関係機関の方と話す機会を設けている。	外部との積極的な連携や支援の開示、校舎の取り組みの言語化が必要。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		研修の提示や提案を頻繁に行い、研修に参加できる環境を設定している。研修に参加した職員は必ず、内容の共有をし、資質の向上に取り組んでいる。	職員自らが研修の周知をすること、年間を通して積極的に参加できる時間の確保。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		支援の開示を行い、「きらり」に行こう週間等で支援の見学ができるよう取り組みを行っている。	支援プログラムの公表を随時行えるよう環境の設定を行っていく事が必要。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6		都度、アセスメントをとることを全員で共有している。そこから見える本人の課題をみつけ共有し計画を作成している。	本質的な課題を見つめることができるよう職員全員で関わりをもつようにしているが、見極めるためのスキルアップが必要。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6		職員全員で検討し作成を行っている。	すべての職員の共通理解の徹底を継続して取り組む。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6		計画を確認して目標に沿って支援を行っている。	職員の支援に対する考え方、支援内容や関わり方、実際の支援を検討し、個々に把握することが必要。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6		標準化されたツールを使い、日々の言動のアセスメントを行っている。	職員の子ども達をみる視点を養っていくことが必要。全体のミーティングでも、職員間で検討する中で、気づくことも多い。様々な視点で捉えていくことが必要。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		6		設定している。	職員間で、共通理解をしていくことが課題である。家族支援、移行支援、地域支援、地域連携など、「きらり」として具体的に言語化することが必要。具体的にわかりやすく言語化できるよう職員全員で理解の統一を図っていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		6		職員全員で検討し作成している。	個々の職員の子ども達をみる視点や本質的な課題を見極めるスキルの獲得も必要であり個々のスキルアップを日々取り組んでいく必要がある。継続して全員で取り組んでいく。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員を2名～3名体制で一つの支援を担当し多角的な視点の中で支援内容を検討作成している。	職員間での共有が必須であり、様々な支援の手だての習得や知識の獲得を継続して行っていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	3	必要に応じて行う体制ではあるが、基本的に個別中心である。	集団活動が苦手なお子様も多いため検討中。小集団での短い時間で関わりをもてることから始めている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝ミーティングで打合せを行い、その後個々でも具体的な役割等の打合せを必ず行っている。	チームとして、支援を行う重要性の定着を目指し日々取り組んでいる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日、もしくは翌日には全体ミーティング及び個別でも共有、検討を行っている。	振り返りの必要性や振り返りからの次回の支援に繋げていく事の大切さ及び方法を徹底することを継続して行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録の徹底と記録を検証し支援の改善等行っている。	支援記録の内容の充実、書き方、記録からどのように検証、改善に繋げていくのかなど共通の理解の徹底と実施を繰り返して行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必要に応じて都度行っている。	適切に判断できるスキルが必要。計画等の方向性や進捗状況の情事の把握も含め、職員間での意識の徹底を行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		適宜行っている。	全てのご利用者様に、充実したサービスが行えるよう環境の設定が必要。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		将来を見据えて支援を行っている。自己選択、自己決定の内容が含まれる支援を活動の中に取り入れている。	お子様の状態に合せた対応や見極めのスキルが必要。継続して職員のスキルアップをおこなっていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		参加している。	担当者会議や関係機関会議のあり方について課題がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		適宜行っている。	「きらり」としての連携の取り方、支援へどのように取り入れていくか課題である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		適宜行っている。	「きらり」としての連携の取り方、支援へどのように取り入れていくか課題である。スムーズに取り組める様体制を整える。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3	必要に応じて行っている。	「きらり」としての連携の取り方、支援へどのように取り入れていくか課題である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		現在、対象のお子様がいらっしゃらない。	情報共有の体制は整っている。その時は、しっかりと連携を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4	機会は設けている。研修以外でも、積極的に話を聞きに行く等行っている。	連携の取り方、助言の受け方等課題が多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		現状活動できていない。	必要に応じて交流をおこなっていく体制はあるが、交流できる時間等の確保に難しさがある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		できうる限り参加している。	グループ内でできうる限り参加できるよう調整している。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎回支援の後に行っている。もしくは、連絡帳等で伝える等行っている。	継続して、職員の支援の質の向上や本質的な課題を見る視点を養うために日々振り返りや共有を行っていく。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		必要に応じて行っている。	保護者勉強会など、定期的開催できるよう企画、準備をしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		しっかりと行っている。毎回の支援後に、支援プログラムの内容及び目的やねらい等を伝えている。	支援プログラムの公表の方法、保護者への伝え方を検討共有し、継続して環境の設定を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		行っている。	こどもの意向もしっかりと反映できる様事業所内で周知の徹底と意識づけを継続して行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		行っている。	分かりやすい言葉でお伝えすることを意識して取り組んでいく。伝え方の練習を行っていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて行っている。	「きらり」をそういった場所して周知していただけるよう取り組んでいく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	2	必要に応じて行っている。	定期的に機会を設けていき、交流の場として取り組めるよう支援を行っている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		対応している。	真摯に受け止め、即座に改善できる体制を整備している。日頃より職員にむけての意識づけの徹底を継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		ホームページやライン等で行っている。	発信はしているが周知の徹底に課題がある。今後「きらり」会報誌等を作成して、周知の徹底が必要である。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		留意している。	事業所内での共通認識の定着と意識づけを継続して徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		行っている。	個々に合わせて情報の伝達を行い、正確に伝える事ができるよう職員全員で取り組んでいく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		どなたでも参加できるイベント等をおこなっている。	地域連携の重要性を鑑み周知活動の徹底や活動内容の充実が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		周知し訓練している。	周知の徹底としっかりと情報を伝えていく事が課題。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		行っている。	迅速に行動し判断できるよう日常的に意識づけの必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認している。詳細な聞き取りをおこない、どのように対応すればいいか確認をしている。	個々に違う対応方法や発作等の学習会などをおこない、迅速な対応ができるよう訓練及び意識づけを継続して行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	現在、飲食の提供がない。水分補給としての水の提供時においても、必ず確認をとっている。	今後を見据えて、シミュレーションや意識の徹底を行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		行っている。事前にシミュレーションをして職員間で検討し共有を行っている。	未然に防ぐことの意識の定着をさらに行っていく。安全を常に意識して未然に防げるよう環境の設定を徹底できるよう職員間で周知徹底する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		周知は行っている。	周知は行っているが、今後「きらり」会報誌を作成して、事業所内での取り組みについてしっかりとご理解をいただけるよう徹底する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎朝ミーティング等で共有を行い都度、改善策を検討している。	未然に防ぐことの意識の定着をさらに行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		対応できている。日々の支援の振り返り等を行う中で、職員間で検討を行うこともしている。	職員のさらなる理解を深めるため支援後の振り返りが重要であり、意識づけを徹底する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		できている。必ず説明を行っている。	周知の徹底、職員のさらなる理解を深めるため支援後の振り返りが必要。	